

ロゼッタネット標準を支える技術 ～技術辞書の活用～

ロゼッタネット標準を支える要素技術の1つにロゼッタネット辞書がある。また、このロゼッタネット辞書は、ビジネス辞書 (RNBD : RosettaNet Business Dictionary) と技術辞書 (RNTD : RosettaNet Technical Dictionary) の二つに分かれている。

前者のビジネス辞書は、ビジネス上で使用される用語 (例えば、取引先の会社名、住所、連絡先電話番号など) を、後者の技術辞書は、製品固有の用語 (例えば、製品の大きさや重さ、性能など) を辞書化したものである。ここで言う辞書化とは、個々の用語の呼称 (XMLで言うタグ名)、意味、記述形式、単位、設定すべきコードなどを機械可読可能な形式で定義することである。

技術辞書を用いる効果は、以下の点にある。

① 取引を行う企業間での省力化と情報流の迅速化が可能

実業の世界で物を購入する多くの場合、複数の業者からカタログを取り寄せ、価格や仕様の比較検討を行い、購入先と購入する製品を決める。しかし、価格や仕様の比較検討の場面では、取り寄せたカタログ内容が業者によりその仕様の呼称、順番、データの単位など区々に記載されていることが多く、購入者側で同じ形式のデータに揃える余分な作業を生み出している。また、カタログ情報交換の自動化を推進する際も同一のデータに揃える仕組みが必要となり、IT化の妨げになっている。

取引業者間で流す情報の統一を図ることが辞

書化であり、技術辞書を用いたIT化を推進することにより、省力化・迅速化が図れるわけである。

② インターネットに流すメッセージの簡素化
インターネットが高速な通信手段であることは周知の事実である。カタログ情報などは、巨大なメッセージになることが多く、高性能なサーバーが必要でIT化の高コストに繋がっている。そこで、インターネット上に流すメッセージの簡素化も必要である。

技術辞書には、情報交換するデータの呼称、意味、記述形式、単位、設定すべきコードなどが定義されているため、インターネット上に流すメッセージには技術辞書のキーと値のみあればよく、メッセージの簡素化を図ることができる。

技術辞書化の動きは、ロゼッタネットにより始まった訳ではなく、JEITA/ECALS委員会 (現ECセンター) をはじめ多くの業界団体や各国標準化団体が同時並行的に行ってきた。また、これら各種団体が進めている辞書化の動きと連携する必要がある。ロゼッタネット技術辞書は、当初よりJEITA/ECALS辞書を取り入れると共に今も連携し、既存技術辞書の見直しや情報種の拡大に努めている。

技術辞書を用いた情報交換は、カタログ情報の交換だけでなく、技術文書交換や環境負荷情報交換といった分野でも実用化を目指した活動が活発に行われている。是非ともこれらの活動にも目を向けて頂きたい。

ビジネスの実態は

